

採血・静注シミュレータ シンジョーⅢ

取扱説明書

目 次



| | |
|-----------------------------|-------------------|
| ●ご使用の前に | |
| 安全上のご注意 | P. 1 |
| ご使用前の確認とご注意 | P. 2 |
| ●注射パッド（上腕注射パッド R タイプ／T タイプ） | |
| 準備 | |
| 1 模擬血液をつくる | P. 4 |
| 2 腕モデルに注射パッドをセッティング | P. 4-P. 5 |
| 3 チューブの接続 | P. 5 |
| 4 準備完了 | P. 6 |
| 実習 | |
| 5 実習手順 | P. 7 |
| 6 後片付け | P. 7 |
| ●注射パッド（前腕注射パッド） | |
| 準備 | |
| 1 模擬血液をつくる | P. 9-10 |
| 2 腕モデルに注射パッドをセッティング | P. 11 |
| 3 チューブの接続 | P. 12 |
| 4 模擬血液の充填 | P. 13 |
| 5 シュアプラグのチェック | P. 14 |
| 6 準備完了 | P. 15 |
| 実習 | |
| 7 実習手順 | P. 16 |
| 8 後片付け | P. 17-P. 18 |
| ●故障かな？と思ったら | |
| 修理依頼前の確認 | P. 19 |

●はじめに

このたびは、「採血・静注シミュレータ シンジョーⅢをお買い上げいただき、まことにありがとうございます。本製品は、手背部及び前腕部での採血・点滴静脈内注射・静脈内注射手技をこの1台でトレーニングできるモデルです。医学・看護教育用の実習教材としてご使用ください。

●特徴

- ・注射パッドは、両面使用可能なトレーニング用 T タイプと、質感・刺入感がリアルな R パッドで目的に応じた使い分けが可能です。
- ・1 本の腕モデルで手背部及び前腕部計 4 か所のトレーニングが可能です。
- ・血液が注射器の先端部に逆流するバックフロー（逆血）が確認できます。
- ・血管や神経の走行を理解できる装着式解剖アームカバーを付属しています。

ご使用の前に

安全上のご注意

ご使用前に、「安全上のご注意」を必ずお読みの上で正しくご使用ください。
ここに示した注意事項は、安全に関する重要な内容ですので、必ずお守りください。

■誤ったご使用により生じる危険や損害の程度を表すマークです。

| | |
|---|--|
|  警告 | 誤った取り扱い方によって、火傷やケガ、火災や感電の可能性が想定される内容を示しています。 |
|  注意 | 誤った取り扱い方によって、モデルやパーツの変形、破損が想定される内容を示しています。 |

■守っていただく事項の種類を表すマークです。

| | |
|---|--------------------------------------|
|  | してはいけない「禁止」の内容です。左図では「分解禁止」を示しています。 |
|  | 必ず実行して頂く「強制」の内容です。左図では「必ず守る」を示しています。 |

⚠ 警告

| | |
|--|--|
| ●付属のアダプタ、電源コードをご使用ください ・付属品以外のアダプタやコードを使用されると、火災や感電の原因となり大変危険です。  故障や火災の原因になります。 | ●電源コードを無理に曲げたり、ねじったり、傷つけるなどしないでください  電源コードが破損し、火災や感電の原因になります。 |
| ●使用時以外は電源プラグをコンセントから抜いてください  やけど・ケガ・絶縁劣化による感電・漏電 火災の原因になります。 | ●指定の電源(日本国内はAC100V)以外では使用しないでください  故障や火災の原因になります。 |
| ●濡れた手で電源プラグを抜き差ししないでください  感電の原因になります。 | ●電源プラグは本体を持ち、確実に抜き差してください  コードを引っ張るとプラグやコードが傷んで火災や感電の原因になります。 |
| ●絶対に分解、改造しないでください  火災・感電・ケガの原因になります。 修理の際は販売店又は(株)京都科学までお問い合わせください。 | ●火気類を近づけないでください  本体の変形や変色、電気系統のショートなど火災の原因になります。 |
| 異常が起きたら | モデル本体や制御ボックス等が熱くなったり、煙が出た時は速やかに本体の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。 |
|  | 異臭がするなど異常な状態に気付かれた場合は、速やかに対処いただき、お買い上げの販売店、もしくは(株)京都科学までご連絡ください。 |

ご使用の前に

ご使用前の確認とご注意

セット内容と各部の名称



- | | |
|--------------------|--------------|
| a. 腕モデル | 2 |
| b. 腕台 | 2 |
| c. 注射パッド 半透明Rタイプ | 2 |
| d. 注射パッド Tタイプ | 2 (腕モデル装着済み) |
| e. 前腕注射パッド (2箇所共通) | 4 (腕モデル装着済み) |
| f. 手背注射パッド | 2 (腕モデル装着済み) |
| g. 循環ポンプ (広口びん付) | 1 |
| h. 血液用ボトル | 2 |
| i. ロック式シリンジ 50ml | 1 |
| j. 着色用綿棒 (赤) 10本組 | 1 |
| k. 解剖アームカバー | 2 |
| 収納ケース | |

●循環ポンプ各部名称



注意

● 注射針は推奨ゲージを使用

古いものや、先端が曲がったもの、推奨ゲージ以上の針を使用すると、注射パッドが破損し消耗をはやめます。※使用する針は23ゲージを推奨しております。

● 汚れは中性洗剤、石鹼水で拭き取る

モデルや注射パッドの汚れは、布で拭き取り乾燥後に少量のパウダーを塗布してください。
※注射パッドにビニール袋のシワの跡がついた場合は、水を含ませた布で軽く拭いてください。

● 保管は高温多湿を避けて

使用後は、高温多湿や直射日光のある場所での保管は避けてください。
変形や故障の原因となります。

● 表面の変色

長期間使用されない場合や経年変化で変色することがあります。ご使用には差し支えありません。

● 実習用推奨器具

駆血帯:ゴム管(ピンチなし)/マジックテープ式

※硬質な素材を使用した駆血帯は、シミュレータ腕部を傷つける可能性があるため、金属や樹脂製のパーツを使用していない駆血帯を推奨いたします。

● Tタイプのパッドは他の樹脂製品と別に保管

他の樹脂製品、印刷物等に触ると変質の原因になります。使用後は腕モデルに装着するか、ビニール袋などに入れて保管してください。

● 注射パッドの取り扱いはやさしく

チューブを持ってパッドを持ち上げる、折り曲げる、つぶす、また注射部位を指で広げたり、パッドを必要以上に押さえたり曲げたりしないでください。破損や液漏れの原因になります。

● 印刷物をモデル表面におかない

モデル表面に印刷物などが直接触れないようにしてください。
樹脂にインクが吸収されて消えなくなります。

● ボールペンやサインペンで書き込まない

サインペン、ボールペンなどでモデルに書き込むと
インクが樹脂に吸収されて消えなくなります。

注射パッド

半透明 R タイプ／T タイプ

■注射パッド半透明 R タイプ

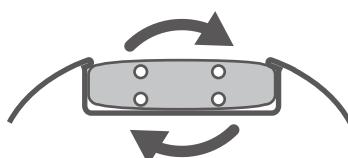
- ・質感・穿刺感がリアルなパッドで、実習や試験に最適な注射パッドです。
- ・パッドには下記 3 本の血管を配置しています。

- 尺側皮靜脈
- 正中皮靜脈
- 橈側皮靜脈



●注射パッド T タイプ

- ・柔軟性があり耐穿刺回数に優れた素材を使用し、自己学習や反復トレーニングに適した注射パッドです。
- ・パッドの両面に各 2 本の血管が配置されており、消耗したら裏返すことにより 1 個のパッドでより多くの穿刺トレーニングができます。



-
- ・T タイプの注射パッドご使用後は、腕モデルに装着するか、他の樹脂製品や印刷物が触れないように、ビニール袋等で保管してください。

1 模擬血液をつくる

※この説明書では、赤色に着色した水を「模擬血液」と呼んでいます。

●循環ポンプ用広口びんに模擬血液をつくる

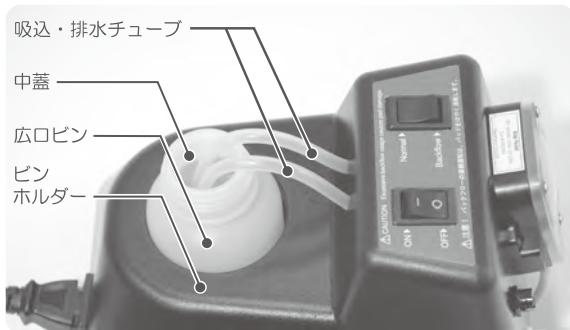
①広口びんに水を入れ着色する

- ・広口びんの中蓋を外し、約6分目まで水を入れ、着色用綿棒を入れて数回攪拌します。



②循環ポンプにセットしチューブを入れる

- ・広口びんに中蓋をし、ピンホルダーにセットします。
- ・ポンプから出ている吸込・排水チューブを中蓋に穴に通してしっかり差し込み、両チューブの先端が、模擬血液の水面から3cm以下にあることを確認してください。



注意

- ・模擬血液は保存できませんので、実習後は廃棄してください。
- ・模擬血液は衣服や繊維製品等に浸透すると落ちにくくなる可能性がありますのでご注意ください。

2 腕モデルに注射パッドをセッティング

①使用する注射パッドを選択する

※腕モデルには、あらかじめTタイプのパッドが装着されています。Rタイプを使用される場合はP.4のセッティング方法を参考に逆の手順で取り外して下さい。

Rタイプ（授業や試験に）



- ・質感・穿刺感がリアルなパッドで、3本の血管を配置し、授業や試験に最適です。

Tタイプ（自己学習や反復トレーニングに）



- ・柔軟性のある素材を使用し、2本の血管を両面に配置することで、Rタイプに比べより多く穿刺できます。（パッドから血管チューブが4本出ています。）



注意

- ・1つの腕モデルには1個のパッドしか装着できません。どちらを使用するか選択してください。
- ・2種類のパッドを同時に使用したい場合は、2つの腕モデルにそれぞれRパッドとTパッドを装着してください。（P.6参照）

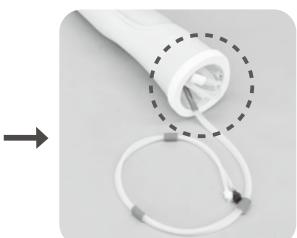
2 腕モデルに注射パッドをセッティング



①腕モデルの凹部にある空洞部分に2本のチューブ（Tタイプは4本）を差し込みます。



②片手でパッドを持ち、もう一方の手で腕モデルの穴を通した2本のチューブ（Tタイプは4本）を引っ張りながら腕モデルの凹部に合わせてパッドを装着します。



※Tタイプのパッドを使用する場合は、使用しない方のチューブを丸め、邪魔にならないよう腕モデルの穴に収納します。

※チューブは裏側／表側を区別するため、各2本が青と白の固定テープで色分けされています。

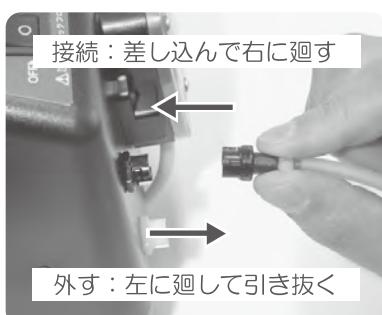


注意

- ・注射パッドのチューブが途中で折れ曲がっていると模擬血液が正常に循環しません。
- ・注射パッドが腕モデルの凹部に収まりにくかったり、表面にシワが出来る場合は、腕モデルの凹部や注射パッドに少量のパウダーを塗布してください。

3 チューブの接続

●注射パッドから出ているチューブを循環ポンプに接続する



●接続

循環ポンプ前面のソケット（黒・白）に腕モデルから出ている2本のチューブプラグ（黒・白）を差し込んでカチッというまで右に廻し固定します。（黒-黒／白-白をつなぎます）

●外し方

チューブプラグをつまみ、左へ廻してから引き抜きます。



注意

- ・チューブの取り外し、接続は必ずポンプを停止させて行ってください。ポンプ作動中に脱着しますと模擬血液が漏れる原因になります。
- ・プラグの脱着は、必ずプラグ部分を持つようにしてください。チューブを持って引っ張ると破損の原因になります。

4 準備完了

●接続完了

①腕モデルを腕台にセットし、循環ポンプの電源コードをコンセントに差し込むと準備完了です。



注意

硬質な素材を使用した駆血帯は、シミュレータ腕部を傷つける可能性があるため、金属や樹脂製のパーツを使用していない駆血帯を推奨いたします。

※1台の循環ポンプで、腕モデルを2本まで接続する事が可能です。



・循環ポンプと腕モデルの接続は、同じ色のプラグ同士を接続しますが、腕モデルを2本同時に使用する場合は、パッド同士の接続部は（黒 - 白）を接続しますので、ご注意ください。

5 実習手順



① Normal (ノーマル) での採血実習

回転方向切替スイッチがNormal (ノーマル) になっていることを確認して電源をONにし、パッドのチューブに模擬血液を循環させて実習を行います。

② Backflow (バックフロー) での逆血の確認実習

回転方向をNormal (ノーマル) にして穿刺を行います。

針先が血管内に刺入したと思われましたら、スイッチをBackflow(バックフロー) に切り替えて逆血をご確認ください。

※確認後は、すぐにNormal (ノーマル) に戻してください。



注意

- 通常はNormal (ノーマル) で実習を行ってください。
- Bacflow (バックフロー) は、逆血を確認する時のみご使用ください。
※Bacflow (バックフロー) の使用時はチューブ内の圧力が高まるため、長時間の連続使用やチューブの変形により針穴から模擬血液が漏れ出す場合があります。
- Tタイプの注射パッドが消耗して反転する場合は、循環ポンプの電源をOFFにしてからパッドを反転し、使用する面のチューブを循環ポンプに接続し直してください。

6 後片付け

●チューブ内の模擬血液を排水する



※写真では分かりやすいように、吸込チューブを、広口ビンの外側に引き抜いていますが実際は引き抜く必要はありません。

①広口ビンの吸込チューブを、模擬血液の水面より少し上に持ち上げ、回転方向切替スイッチをNormalにしてから電源スイッチをONにすると、チューブ内の模擬血液が排出されて広口ビンに戻ります。

②チューブを引き抜いて広口ビンを洗浄し、きれいな水を入れ、再び吸込・排水チューブを差しこみ、電源スイッチを入れて水を循環させるとチューブ内が洗浄できます。チューブを広口ビンから引き抜く時は、ゆっくりと引き抜いてください。

③模擬血液の排出方法と同様に、②の水を①の手順でチューブ内より排出してください。

④腕モデルや循環ポンプの汚れた箇所は、よく絞った布等で拭き取ってください。



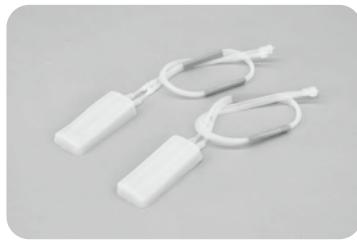
注意

- 吸込・排水チューブを持ち上げる際に先端が広口ビンから飛び出さないようご注意ください。
- 模擬血液が目に入った場合は水道水などで洗い流してください。
- アルコール、シンナー等の有機溶剤はご使用にならないでください。
- 汚れがひどい場合は中性洗剤又は石鹼水をご使用ください。

注射パッド

前腕正中皮静脈部注射パッド 手背静脈部注射パッド

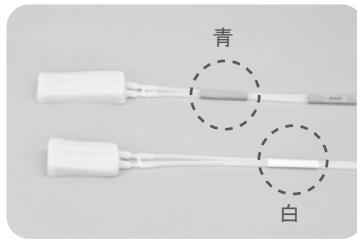
■前腕正中皮静脈部注射パッド



■手背静脈部注射パッド



- ・2種類のパッドは形状が異なるため、同じパッドを1本の腕モデル3箇所に装着することはできません。

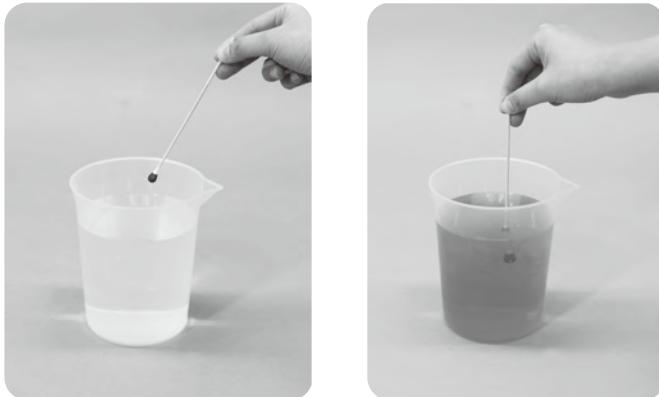


1 模擬血液をつくる

※この説明書では、赤色に着色した水を「模擬血液」と呼んでいます。

①容器に水を入れ着色する

- ディスポカップ等適当な容器に水（約1,000ml）を入れ、その中に着色用錠棒1本（顔料のついた側）を入れ、数回攪拌して模擬血液をつくります。



※画像のディスポカップは、
製品に付属しておりません。



注意

- 模擬血液は保存できませんので、実習後は廃棄してください。
- 模擬血液は衣服や繊維製品等に浸透すると落ちにくくなる可能性がありますのでご注意ください。

②ボトルを組み立てる

- 模擬血液用ボトルをボトル設置台にセットします。



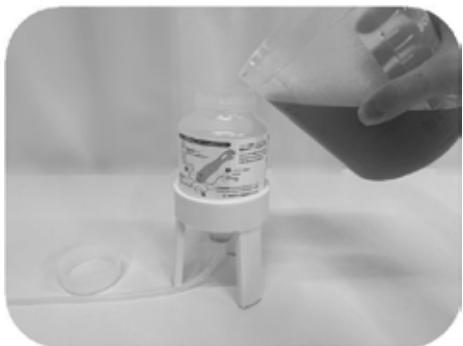
注意

- ボトルを設置台にしっかりと奥までさしこんで使用してください。
- 模擬血液を入れる前に小キャップがゆるんでいないことを確認してください。
水漏れの可能性があります。

① 模擬血液の準備

3. 模擬血液用ボトルの蓋を取り、出来上がった模擬血液をボトルの中に約450mL（ボトルに表示した適正レベルより上に液面がくるように）入れます。

残った模擬血液は実習中の補充用としてとっておきます。



注意

模擬血液はボトルに表示している**適正レベル**より上に液面がくるまで入れてください。
実習中に模擬血液の水位が矢印内の範囲より下がると、模擬血液を送る圧力が低下し逆血（フラッシュバック）が適正に確認できません。
実習中にボトル内の模擬血液が減ってきたら必ず**適正レベル**まで補充してください。

模擬血液注入後は蓋をしっかりと閉めてください。
これで模擬血液の準備が完了です。

※模擬血液ボトルチューブの先端のコネクター（シェアプラグ）は接続していないときは自動的にロックされる方式のため、模擬血液がチューブより漏れることはあります。

② 腕モデルに注射パッドをセッティング

- ① 注射パッドから出ている2本のチューブを、パッド設置部の凹部の中にある穴に通します。反対側の穴からチューブが出てきたら、2本のチューブを引っ張りながらパッドを装着部の凹部まで導き、チューブが出ている側から凹部にパッドを差し込みます。



- ② 最後に末梢側部分を凹みの中に收めます。他の2カ所のパッドも同様の手順で装着します。



- ③ これで注射パッドの装着は完了です。



※注射パッドの取り外しは装着と逆の手順で行ってください。

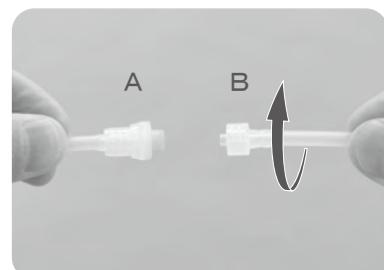
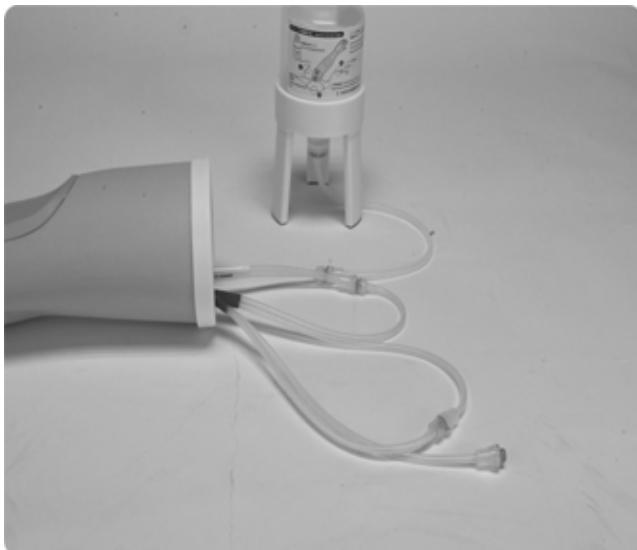
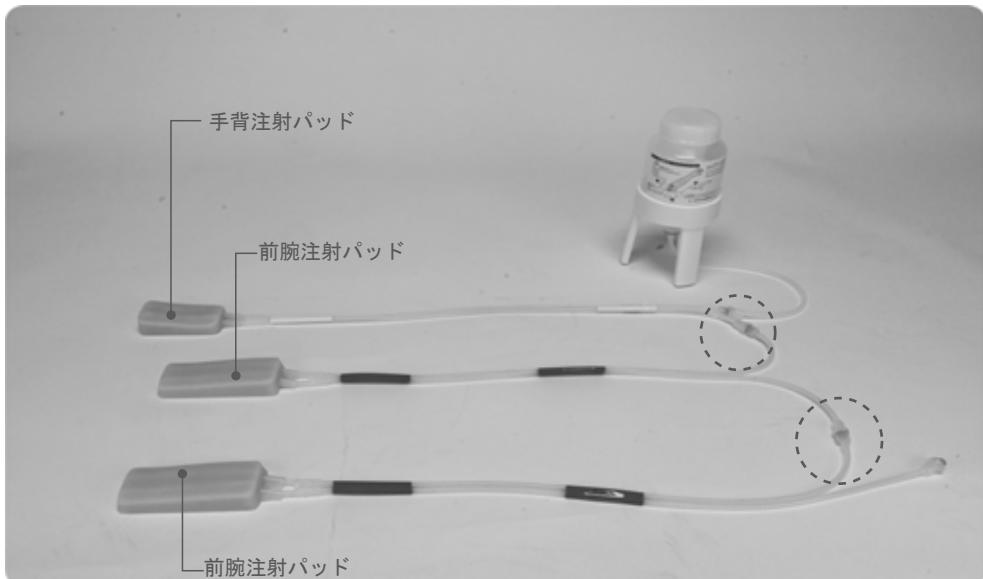


注意

- ・注射パッドの装着時及び取り出し時は、必ず片手でパッドを持ち、もう一方の手でチューブを持って作業を行ってください。パッドのチューブ接続部が破損する場合がありますので、チューブ側またはパッド側のみを引っ張ってパッドの装着、取り外しは行わないでください。

3 チューブの接続

注射パッドから出ているチューブ同士及びチューブと血液用ボトルの接続は下記を参照してください。



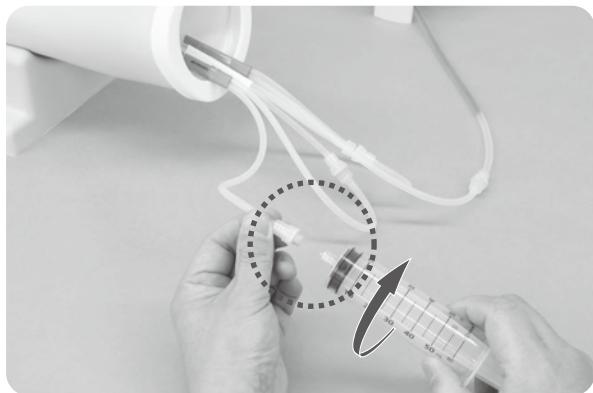
- ・チューブの接続は、形状の異なるコネクターAとBを接続します。
- ・コネクターBをコネクターAに差し込みながら時計回りに回して接続します。



-
- ・コネクターの接続はしっかりと最後まで回して固定してください。
接続が不十分だと、コネクターのロックが解除されず、模擬血液が流れません。

4 模擬血液の充填

①付属のシリンジ（50mL）を、手背静脈部注射パッドのチューブコネクターに接続します。



②ゆっくりとシリンジを引いて、模擬血液用ボトルの模擬血液をチューブとパッド内に充填してします。

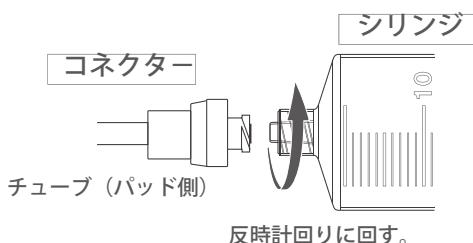


注意

- ・シリンジはゆっくり引いてください。早く引くとパッド内の血管を損傷する恐れがあります。
- ・模擬血液がチューブ内に引けない場合は無理にシリンジを引かず、まずコネクター同士がしっかりと固定されているか確かめてください。

シリンジは必ず引いてください。
無理に押してチューブ内の内圧を上げたり、シリンジを引くスピードが早いと、パッド内のチューブが劣化する原因となります。

③シリンジ内まで模擬血液が達したらシリンジを外します。これでシミュレータの準備は完了です。

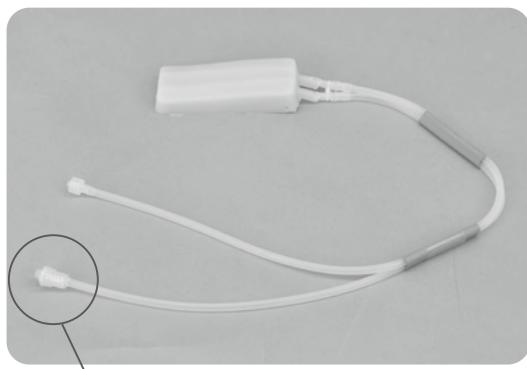


- ・シリンジで模擬血液が注入できない場合は、シュアプラグが詰まっている可能性があります。次頁を参考にチェックしてください。

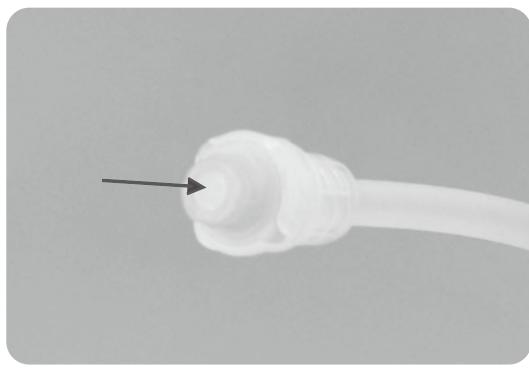
5 シュアプラグのチェック

シリンジで模擬血液が注入できない場合は、シュアプラグが詰まっている可能性があります。お手数ですが、下記を参考にシュアプラグの先端に細い棒などを差し込んでご確認ください。

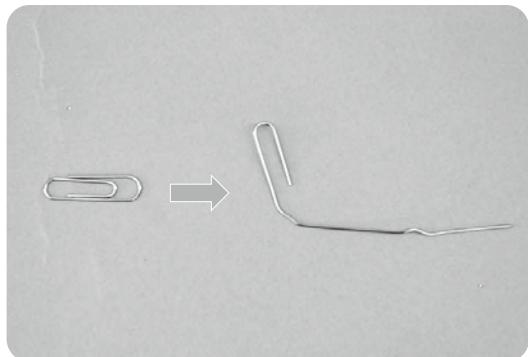
- ①シュアプラグの先端に細い棒^{*}をチューブ内の見える位置まで差し込んでください。



シュアプラグ



- ②細い棒がない場合は、ゼムクリップなどを利用してお使いください。



6 準備完了

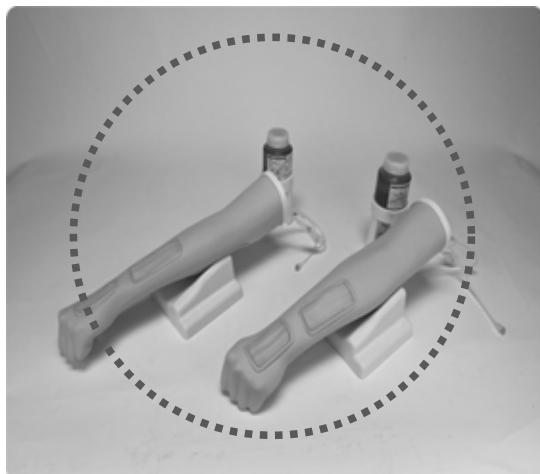
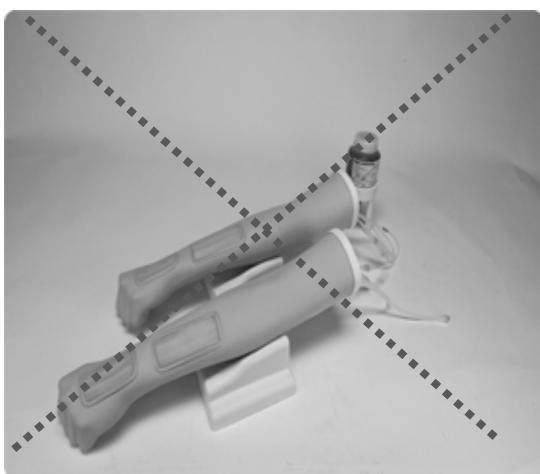
●接続完了



注意 硬質な素材を使用した駆血帯は、シミュレータ腕部を傷つける可能性があるため、金属や樹脂製のパーツを使用していない駆血帯を推奨いたします。

腕モデルを2本使用する場合

- ・2本の腕モデルを接続して1個の血液用ボトルで使用されますと、血液用ボトルの水圧が不足するため、刺入時の逆血確認が出来なくなります。
腕モデルを2本使用される場合は、それぞれの腕モデルに血液用ボトルを接続してご使用ください。



注意

- ・1個の血液用ボトルに2本の腕モデルを接続することはできません。
2本の腕モデルを使用する場合は腕モデル1本につき1個の血液用ボトルを接続してください。

7 手技項目と実習中のご注意

●実習項目

前腕正中皮静脈と手背静脈（背側中手静脈）からの点滴静脈注射、採血／静脈注射手技をトレーニングできます。

実習に使用する静脈留置針、翼状針はいずれも 23G 以下の物を推奨いたします。

また硬質な素材を使用した駆血帯は、シミュレータ腕部を傷つける可能性があるため、金属や樹脂製のパーツを使用していない駆血帯を推奨いたします。



皮膚を伸展しながらの刺入



刺入時の逆血確認



圧迫操作と内針の抜去



輸液の自然滴下確認



刺入部の固定



側注管からの薬液投与

〈実習項目〉

1. 駆血帯を巻く
2. 刺入部位の確認
3. 刺入部位の消毒
4. 静脈留置針の刺入
5. 刺入時の逆血の確認
6. 静脈圧迫操作と内針の抜去
7. 輸液チューブの接続
8. 輸液の自然滴下確認
9. 静脈留置針刺入部の固定
10. 側注管からの薬液投与



注意

- ・実習中は血液用ボトルの水位にご注意ください。
水位がボトルに表示した適正レベルより下がると、模擬血液を送る圧力が低下し逆血（フラッシュバック）が適正に確認できません。実習中にボトル内の模擬血液が減ってから必ず適正レベルまで補充してください。



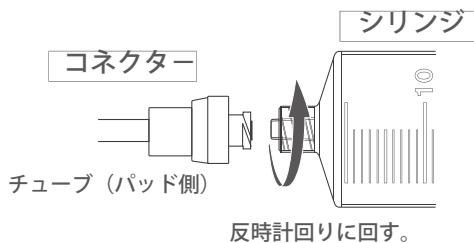
「点滴静注シミュレータ器具セット」のご案内

※別売の「点滴静注シミュレータ器具セット」により、静脈留置針による末梢静脈路確保の実習をすぐに行う事が出来ます。
裏表紙をご参照ください。

8 後片付け

実習後はパッドやチューブ内の模擬血液を排出します。

- ①血液用ボトルに入っている模擬血液を廃棄します。



- ②付属のシリンジ (50mL) を、接続されていないチューブのコネクターに接続し、シリンジをゆっくりと引きチューブ内の模擬血液を吸引します。シリンジに吸引した模擬血液は廃棄してください。



- ③空になった血液用ボトルに約 50mL 程度の水を入れ、改めてシリンジで水を吸引し、チューブ内がきれいになるまで繰り返します。



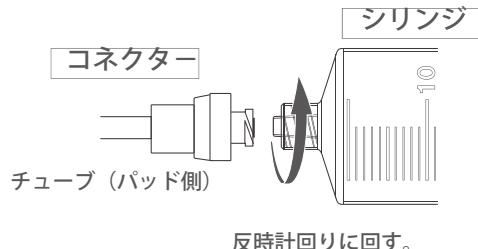
シリンジは必ず引いてください。またゆっくりと引いてください。

シリンジ押してチューブ内の内圧を上げたり、シリンジを引くスピードが早いと、パッド内のチューブが劣化する原因となります。

- ・別売の実習用バイアル(溶解薬剤タイプ)を使って実習された場合、チューブ内を特にきれいに洗浄してください。溶解薬剤がチューブ内に固着し、劣化の原因になります。

8 後片付け

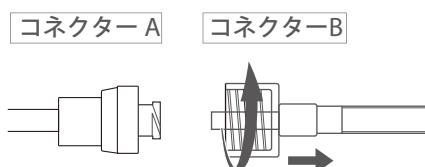
④チューブ内がきれいになったら、シリンジやチューブ同士をつないでいるコネクターを外します。



反時計回りに回す。



⑤ボトルを固定台から外します。



反時計回りに回す。



洗浄後は、すべての部品を十分に乾燥させてから、収納ケースに入れ保管してください。

故障かな？ と思ったら

修理依頼前の確認

ご使用中にトラブルが発生した場合は、下の表にしたがって確認してください。それでも解決しない場合は、お買い上げの販売店もしくは（株）京都科学までご連絡ください。
(TEL 075-605-2510又は03-3817-8071)

| 症 状 | 原 因 | 対策・対処 |
|---|--|---|
| ポンプが廻らない。 | コンセントに電源プラグが しっかりと差さっていない。 | コンセントに電源プラグを しっかりと差し込んでください。 |
| | 電源スイッチが [OFF] にな っている。 | 電源スイッチを [ON] にし てください。 |
| | コンセントに電流がきてい ない。 | ブレーカー等を確認してく ださい。 |
| 上記の対処をしてもポンプが廻らない場合は、循環ポンプの故障が考えられますので あ手数ですが販売店もしくは（株）京都科学へ修理をご依頼下さい。 | | |
| ポンプは廻っているが、 模擬血液が循環しない。 | 注射パッドのチューブが傷ん でくると空気が入り模擬血液 が循環しにくくなります。 | 新しい注射パッドをお求め ください。 |
| | 注射パッドから出ているチ ューブが、途中で折れ曲が っている。 広口ビンのチューブ先端が 水面より上に出ている。 | 注射パッド及びチューブを もう一度セットしなおして ください。又、チューブが 完全に折れている場合は、 新しい注射パッドをお求め ください。 |
| 注射パッドから模擬血 液の液漏れが激しい。 | 注射パッドが消耗している。 | 新しい注射パッドをお求め 下さい。 |
| | 回転方向スイッチがBackflow [バックフロー]になっている。 | 回転方向スイッチをNormal [ノーマル]にしてください。 |
| 静脈注射や点滴などで、 注射パッドが変形した。 | 血管チューブ内に針先が正し く入っていない状態で液体等 を注入されると、パッド内 部に液体、空気が残ることが あります。 | 注射器で、パッド内部の液体、 空気を抜いてください。 |



モデル表面に印刷物などが直接触れないようにしてください。
樹脂表面にインクが吸収されて消えなくなります。

消耗品

| コード番号 | 部品名 | コード番号 | 部品名 |
|--------------|------------------|--------------|---------------|
| 11267-300-03 | 注射パッド半透明Rタイプ 2個組 | 11388-400 | 着色用綿棒（赤）10本組 |
| 11430-020 | 注射パッドTタイプ 2個組 | 11267-300-02 | 腕台 |
| 11388-200 | 前腕注射パッド 2個組 | 11267-300-05 | 循環ポンプ ※広口ピン付き |
| 11388-300 | 手背注射パッド 2個組 | | |



11267-300-03 注射パッド半透明
(Rタイプ) 2個組



11430-020 注射パッド
(Tタイプ) 2個組



11388-400 着色用綿棒（赤）10本組



11388-200 前腕正中皮静脈部
注射パッド(2ヶ組)



11388-300 手背静脈部
注射パッド(2ヶ組)



11267-300-02 腕台



11267-300-05 循環ポンプ
※広口ピン付き

関連製品



12022-800 点滴静注シミュレータ
器具セット

・ご不明な点は、お買い上げの販売店、もしくは下記（株）京都科学まで御連絡ください。



URL ● <http://www.kyotokagaku.com>
e-mail ● rw-kyoto@kyotokagaku.co.jp

■本社・工場

〒612-8388 京都市伏見区北寝小屋町15番地
TEL:075-605-2510 (直通)
FAX:075-605-2519

■東京支店

〒113-0033 東京都文京区本郷三丁目26番6号
NREG本郷三丁目ビル2階
TEL:03-3817-8071 (直通)
FAX:03-3817-8075